

「合法木材」に関する事業者セミナー  
～東京オリンピック・パラリンピックを機に、木材で“魅せる”まちの実現を～  
報告書

## 1. セミナー開催概要

### 【開催目的】

2006年4月よりグリーン購入法の下、合法性の確認された木材、いわゆる「合法木材」の制度が本格稼動して以来、政府はじめ関係機関の継続的な取組みにより、徐々に木材業界内における「合法木材」の認知度は向上してきている。さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催控え、各種建造物等に使用される木材や各種原料のサプライチェーンにおける環境社会配慮に対して高い関心が寄せられている。

本セミナーは、木材の大口消費者である住宅建築関連業界や大型建築を担うゼネコン業界などを中心とした多業種を対象とし、「再生可能で環境負荷の小さい原料」である木材をより多く採用した「魅せる街づくり」、「木材のある街づくり」といった視点も織り交ぜ、どのような木材の活用法があるのか、そのために克服する課題は何か、といった木材利用の裾野を広げる「きっかけ」を導き出す場の提供を目的としています。

### 【開催日時・場所】

2015年2月27日（金） 13:00～16:30

日比谷図書文化館 コンベンションホール（千代田区

### 【プログラム】

#### ●発表：

- ・オリンピック大会における認証材利用～ロンドンオリンピックに学ぶ  
FSC ジャパン 岩瀬 泰徳 氏
- ・国内の認証普及の現状と展望  
PEFC アジアプロモーションズ 武内 晴義 氏
- ・国産型枠合板の現状と展望  
日本合板工業組合連合会 川喜多 進 氏
- ・国産家具認証制度の現状と展望  
（一般社団法人）日本家具産業振興会 丸山 郁夫 氏
- ・「合法木材」の普及の現状と展望～オリンピックに向けて  
（一般社団法人）全国木材組合連合会 森田 一行 氏

#### ●パネルディスカッション：

モデレーター：森林総合研究所 藤間 剛 氏

【主催】（一般社団法人）全国木材組合連合会

【参加者数】135名（一般参加者：119名、関係者：16名）

## 2. セミナー報告概要

セミナー冒頭、主催者である全国木材組合連合会の森田一行氏より合法木材の取り組みが進められるなか、オリンピック開催を契機とした信頼ある木材利用の拡大が期待される旨が言及された。来賓挨拶としては、林野庁木材利用課課長の吉田誠氏より、今後の合法木材の取り組みにおいては持続可能性をも考慮に入れるべき旨が強調され、続く来賓の東京都環境局資源循環推進部計画課計画係長の古澤康夫氏からは、持続可能な資源利用を目指す東京都による環境関連の取り組みにおける主軸として、1. 資源の無駄を排除する、2. エコマテリアルの利用、3. 廃棄物の循環利用の三点が示され、二点目に関わるものとして、再生可能素材である木材の利用の拡大の可能性が提示され、東京オリンピックにも関連する東京都としてのまちづくりの観点からも環境に配慮された木材利用の拡大がもつ意義の重要性が関連付けられた。

発表①「オリンピック大会における認証材利用～ロンドンオリンピックに学ぶ」 FSC ジャパン 岩瀬 泰徳 氏

FSC ジャパンの岩瀬氏からは、ロンドンオリンピック開催時における環境配慮した木材調達について説明された。同五輪では、認証材使用率 90%のオリンピックパークを始め、内装材のみならず構造材、天井表層材へも木材が多用された。競技施設以外でも、選手村、パーク内の陸橋、観客席のベンチ等の恒久性のある設備にも用いられ、パーク内の施設（マクドナルド）にも認証材を使用した。

同五輪において「なぜ認証材が使用されたか？」への答えとしては、環境面だけではなく社会面（労働者、先住民、地域住民の権利、ジェンダー、人権）への配慮が重要視されたことを強調。オリンピックの柱である「スポーツ・文化・環境」が責任のある調達により実現され、これは社会面だけではなく経済的にも配慮した取り組みであったことが報告された。同五輪では、施設の木材利用の他、チケット等における認証紙、再生紙の利用も行われ、この方針がリオ五輪へも引き継がれていくことが示された。

発表②「国内の認証普及の現状と展望」 PEFC アジアプロモーションズ 武内 晴義 氏

先の FSC ジャパンによるロンドンオリンピックにおける認証材利用の概況についての発表を受け、同五輪において同様に使用された認証材である PEFC の武内氏からは、世界における森林認証制度の認知度の違いとしてヨーロッパとアジア圏の比較が行われ、前者よりも後発的ではあるが近年、PEFC との相互認証が進むアジア各国の認証制度についての説明が行われた。また、2015年3月に相互承認される日本の SGEC についても言及され、近年グリーン化が進む五輪の流れの中で、東京オリンピック・パラリンピックに際しても、積極的に国内外の認証材が使用されることが望まれる旨が報告された。

発表③「国産型枠合板の現状と展望」日本合板工業組合連合会 川喜多 進 氏

五輪の競技施設および選手村等の大規模建築における重要な建築資材であるコンクリート型枠合板の現状と今後の見通しについて、日本合板工業組合連合会の川喜多氏より、近年では国産材を使用した製品の開発が進み、生産国の環境・社会へのインパクトが大きいとされるマレーシア産のラワン(メランティ)合板と比較しても遜色のないものになって来ている現状が報告された。現時点での国産材利用量は、全体の 75%にあたる 300 万 m<sup>3</sup>であり、今後は 500 万 m<sup>3</sup>まで引き上げることが目標とされている。

国産材を使用したコンクリート型枠合板の性能については、高層建築での実証においてもたわみ、はらみがないことが証明されており、ダム土木工事のような水に接触する機会が多い状況においても、十分な性能が証明されていると説明された。また合法性証明について、同会としては、建築現場において製品を使用する作業員各自が認識できるような製品一枚毎の表示を心がけており、現場および流通に携わる各業者による合法性証明への理解の浸透を目指している。

発表④「国産家具認証制度の現状と展望」（一般社団法人）日本家具産業振興会 丸山 郁夫 氏  
国内の家具製造業者が所属する日本家具産業振興会の丸山氏からは、国産家具の輸出促進に関わる同会の取り組みに加え、製品に使われる材料の要件として合法木材をも含む国産家具表示認定制度について説明された。同制度導入に至る過程において、原産地表示等の製品の安心・安全を保証する制度の採用を考慮に入れながら、業界団体としての環境配慮をかたちにする方法を模索してきた旨が報告された。

また、大規模建築に際した家具のコントラクトについては、五輪開催に伴う需要拡大を期待しながら、自主的な取り組みとしての環境対応（素材の合法性、シックハウス対策、塗料への配慮等）を進めることで、顧客層に対して業界としての方向性を示す考えであるとされた。

発表⑤「合法木材」の普及の現状と展望～オリンピックに向けて（一般社団法人）全国木材組合連合会 森田 一行 氏

林野庁によるガイドライン制定時より合法木材の普及拡大へ従事してきた全国木材組合連合会の森田氏より、木材利用ポイント制度、地域型住宅ブランド化事業等の近年の取り組みに際し、合法木材供給業者が同制度導入時より倍増している現状が示され、証明された木材・木質製品への需要が高まっている旨が報告された。

また戦後、木材から非木材素材の利用が高まる流れがあるなか、信頼のある木材利用の拡大により国内の林業を活性化させることで森林保全を実現する可能性が示された。東京オリンピック・パラリンピックは、来訪する人々に対し、日本の伝統的な木づかいを、現代の技術により東京の街全体、日本全体としての新しい街づくりに活かした事例を示す良い機会であることが主張された。

### 3. パネルディスカッション

上記の各発表を受けたパネルディスカッションでは、森林総合研究所の藤間氏をモデレーターとし、各発表者参加の下、会場のセミナー参加者との質疑応答を通し、認証材、合法木材等の木材利用の展望についての活発な議論が行われた。

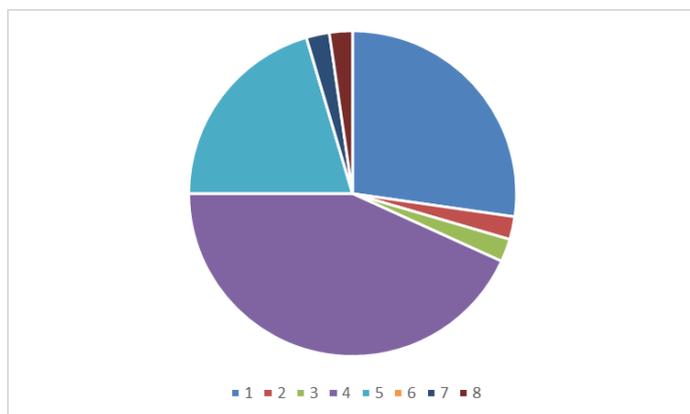
主な質問項目を以下に挙げる。

- ・日本の合法木材の取り組みは、諸外国の取り組みと比較して後進的ではないか？法制化の動きがないのは、違法伐採対策として不十分ではないか？
- ・ヨーロッパにおける森林認証材のマーケットは、どれほどのシェアをもつのか？
- ・海外の木材生産国、および日本国内の生産の現場へ踏み込んだ対策が必要ではないか？
- ・合法木材によって経済的利益はあるのか？コストがかかっているだけではないのか？
- ・森林をどのように活性化させるか？エネルギーへの還元を含めどう木材の付加価値を高めるか？
- ・五輪ではどの程度持続可能性が考慮されているのか？

#### 4. アンケート集計結果

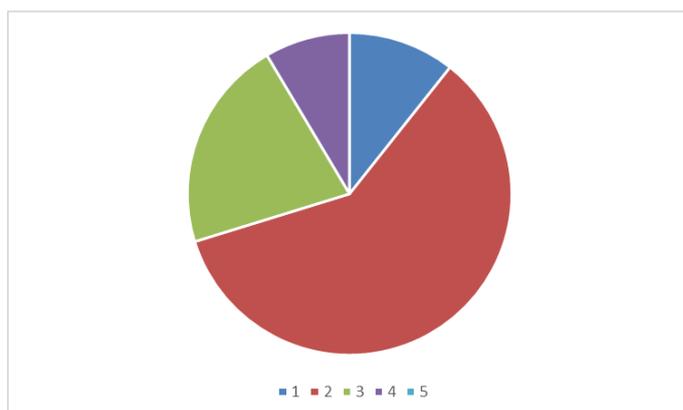
本セミナーでは、以下の四問についてアンケートを実施した。回答と共に下に示す。

##### Q1. 今回のイベントはどこでお知りになりましたか？【広報・集客源】



1. 主催者からのお知らせ
2. メールマガジン
3. ちらし
4. その他WEBサイト
5. 講演者・知人等
6. ツイッター
7. ブログ
8. フェイスブック

##### Q2. セミナーはご満足していただけましたか？【企画満足度】



1. 大変満足
2. やや満足
3. どちらとも
4. やや不満
5. 大変不満

##### コメント：

- ・「合法木材」というキーワードが、今後、社会的により認知されてくると思われ、それに対し、今まで以上に早い時期から何らかの対策を検討していく必要性を感じた。
- ・国内の木材利用に対する取り組みや姿勢を知ることができた。
- ・認証材関係者と加工流通関係者が東京オリンピックを機に何を考えているのか知りたかった。
- ・認証材が合法木材の話だけでなく、型枠が家具等の取り組みも聞いたのが良かった。
- ・認証制度とオリンピック・パラリンピックの関係を具体的に知ることが出来た。
- ・様々な機関が独自の基準を採用しているので理解できなかった。
- ・パネルディスカッションの認証と合法議論が熱かった。それぞれの視点からの意見があり、自らも考えていくきっかけになった。

##### Q3. セミナーの内容に関するご感想・ご意見をお寄せ下さい。(関心をもったスピーカー、内容)

- ・業界団体の意識の低さに改めて驚かされた。五輪に向かってと言う意味では、政府、経済界、消せ者、圧力なのかイニシアティブをとって進めない限り、目標達成は難しいと思う。
- ・森林認証と合法木材の位置づけの違いがわかったので、とても勉強になった。全森連などが山

側の講演に入っていれば、面白かったとも思った。

- ・全木連の森田さんのお話が分かりやすかった。
- ・前半のプレゼンはやや物足りない。パネルは興味深く、モデレーターのまとめも良かった。
- ・環境・持続可能な社会の実現には、木材・合法木材認証材が絶対必要なことが理解できた。オリンピックを契機とした合法木材の利用拡大が達成されるために国民へのPR・発信をすべき。
- ・責任ある調達の重要性が大事ということが理解できた。
- ・合法木材を消費者が選択するよう普及していくことと、山側の意見を変えていくことが重要だと思った。
- ・間伐材等コンクリート型枠合板活用を国産家具認証制度など、地道な取り組みを続けることの重要性を感じました。

#### Q4. その他、主催団体へのご意見・メッセージなどご自由にお書きください。

- ・ロンドンオリンピックでFSC,PEFC認証材が使われたが、イギリス国内産ではなかったということを知らなかったのが衝撃的でした。東京オリンピックで森林認証材を使っていくということは、国外産材をすすめることでなくて、国内産材や地元(関東近辺)の認証を進め、使っていくことではないのか。
- ・本セミナーの講義の中でも「持続可能」が担保された材料、持続可能な森林管理と言われていますが、合法性の証明システムに比べて持続可能性についての証明方法が「森林認証、COC認証」以外にない状態を変えないと、諸外国に比べて遅れていくのではないのでしょうか・勉強不足で「持続可能性」について他の証明方法がありましたら教えていただけましたら助かります。
- ・どのセミナーでも、国産材の利用を増やすことばかり焦点があてられているが、そのあとの木材なのことがほとんど話題にならない、別の機会にこの辺を取り上げてほしい。
- ・林野庁が東京オリンピックを機に「合法材」に関してどのように考えているのか、知りたい。現在あるグリーン購入法のレベルで良いのか？国際的なレベルに達しているのか？
- ・合法木材や認証制度の取り組みは、消費者に理解してもらう事で成功になると考えています。消費者に最も近いところで制度のアピールする事が認知への近道だと思いますので、それに対する今後の取り組みをお願いします。